

日本科学者会議 福岡支部ニュース

No. 256

2019年6月19日発行

●日本科学者会議事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15

Tel: (03) 3812-1472

●福岡支部事務局

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学・基幹教育院

小早川義尚 気付け

<TEL> 092-802-6014

<E-mail> fukuoka@jsa-fukuoka.sakura.ne.jp

<郵便振替> 福岡 01790-1-5576

<支部HP> <http://jsa-fukuoka.sakura.ne.jp/index.html>

目次

ページ

1	原水爆禁止 2019年世界大会・科学者集会 in 福岡(7月28日)の案内	1
2	日本科学者会議福岡支部第49回定期大会の報告	2
3	福岡支部講演会「グローバル化された国際競争下での我が国の大学の在り方」の報告	4
4	福岡核問題研究会(4/27)「原子炉級プルトニウムと核兵器」の報告	5
5	例会等の案内	6
5-1	福岡核問題研究会(6/22)「公開質問書に対する九州電力回答と応答の評価検討」	
5-2	北九州分会例会(6/28)「人間の進化および姿勢・生活行動・運動における重力の役割」	
5-3	『日本の科学者』7月号 読書会(7/8)「<特集>技能・技術教育の現状と課題」	
5-4	『日本の科学者』8月号 読書会(8/12)「<特集>持続可能な水インフラを作る」	

1. 原水爆禁止 2019年世界大会・科学者集会 in 福岡の案内

前号の支部ニュース(No.255)で案内しましたように、今年の原水爆禁止 2019年世界大会・科学者集会是福岡で以下のように行われることになりました。一般の市民とともに多くのJSA会員の参加により今年の科学者集會を成功させましょう。

原水爆禁止2019年世界大会・科学者集会 in 福岡 ～市民運動の役割と科学者の責任～
「九州・沖縄から東アジアの平和をどう構築するか」

日時：2019年7月28日(日) 10:00～17:30

会場：春日クローバープラザ(〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7)

<開催趣旨>

いま東アジアには、2018年6月の史上初の米朝首脳会談とそれに続く2019年2月の第2回目の米朝首脳会談を巡る緊張した状況があります。米朝の首脳会談は、朝鮮半島の非核化に繋がる可能性を内包しているとはいえ、その後の成り行きを観れば決して楽観できるものではありません。

防衛省は北朝鮮の弾道ミサイルを始めとする軍備増強を理由に、山口県の陸自むつみ演習場へのイージスアショアの配備を進めようとしています。また、他方では、中国の海洋進出や尖閣諸島の領有権をめぐる問題を理由に、島嶼防衛や抑止力を高めるとして、沖縄・辺野古の新基地建設と同時に、鹿児島種子島から、奄美、沖縄本島、宮古、石垣、与那国の各島をつないで自衛隊の新規配備と増強を急ピッチに進め、南西諸島の「軍事要塞化」をはかろうとしています。

このような九条改憲を狙う安倍政権がそれを先取りするかのよう軍拡路線を推し進める状況の中で私たちは、東アジアをめぐる状況をどのように捉え、どのような展望を持って朝鮮半島および日本を含む東アジアの非核化をすすめ平和を構築していくのかを考える集まりを開催することとしました。平和を願う多くの市民の参加をお願いします。

<基調講演> (10:00~12:10)

- ① 石川捷治 (九州大学名誉教授・久留米大学客員教授)
「東アジアにおける平和の条件」
- ② 鈴木達治郎 (長崎大学核兵器廃絶研究センター教授)
「北東アジア非核兵器地帯にむけて ―この機会を逃すな―」

<一般講演> (13:00~16:15)

- ① 李俊揆 (韓神大学統一平和政策研究院 上席研究員)
「朝鮮半島平和プロセスにおける現在の争点と課題 ―韓国市民社会の視点から―」
- ② 亀山統一 (琉球大学助教)
「沖縄問題, 東アジアの平和・安定、核兵器廃絶 ―『辺野古新基地反対』の県民意思がもたらすもの―」
- ③ 稲村蓉子 (佐賀中央法律事務所弁護士)
「佐賀空港へのオスプレイ配備問題の報告」
- ④ 西田隆二 (新田原基地爆音訴訟弁護団 事務局長)
「新田原基地爆音訴訟報告 ―自衛隊基地単体での初めての基地訴訟の意義―」
- ⑤ 徳永克子 (行橋市市議)
「米軍基地化を許さない! 築城基地の現状」
- ⑥ 岡本良治 (九州工業大学名誉教授)
「原子炉級プルトニウムと核兵器」
- ⑦ 増山博行 (山口大学名誉教授)
「陸上イーゼスと SSA レーダー ―ミサイル防衛・宇宙監視の新基地が山口に―」

<総合討論> (16:15~17:30)

<懇親会> (18:00~20:00)

2. 日本科学者会議福岡支部 第49回 定期大会の報告

去る5月18日(日)に、久留米大学福岡サテライト(天神エルガーラオフィス6階)において、第49回定期大会が14名の会員の現出席で開催されました。議長に河内会員を選出して、幹事会からの2018年度支部活動報告、支部会計報告・監査報告が承認され、引き続き、2019年度支部活動計画と支部予算案の提案を受けて討議を行い承認されました。また、2019年度の支部幹事に河内、小早川、中野、西垣、三好の5名が選出され、全国大会代議員に三好が選出されました。承認された2019年度の活動方針、2018年度決算報告・幹事監査報告、2019年度予算案は以下の通りです。(報告者:小早川義尚)

2019年度日本科学者会議福岡支部活動方針:

日本の政治・経済・思想情勢においては、安倍内閣による民意を無視する沖縄辺野古の埋め立の強行、立憲主義・法治主義の破壊、止めどのない閣僚の失言・失態、社会的・経済的格差の拡大など、政治・行政の腐敗・劣化の進行が続いている。その下で、現政府は3.11からの教訓を生かすこともしない原発をベースとしたエネルギー政策を進め、北朝鮮を巡る情勢にまともに対応できずに相変わらずアメリカの軍事力を背景としたの政策・武器輸出に追随する軍備拡張を行い、一方で科学技術の進展に伴う情報化社会の進行(ビッグデータの処理技術とその利用など)が急速に進む社会状況において、科学者のとるべき姿勢が厳しく問われている。特に、近年の安倍政権の安全保障政策の下で、防衛省の安全保障技術研究推進制度(競争的資金制度)に象徴される科学者・技術者を軍産学の共同の道へ引き込もうとする動向には、引き続き注意する必要がある。

そうした動きに対抗して、一昨年度、日本学術会議はこうした圧力にも屈せず、軍事研究は行わないという基本姿勢を確認した。また、昨年度末には、一般市民にも国公立大学の現状を理解してもらい、共に大学のあるべき姿を考えるために「大学フォーラム」という全国的組織が結成され活動を始めた。福岡においても、積極的に平和を目指す科学の発展というJSAの姿勢を明

確にして、大学フォーラムの運動に呼応し、大学の危機を打開し、大学における軍事研究反対の声を広げてゆくことが求められている。

また、通常の支部活動は、継続した福岡核問題研究会・福岡環境研究会・生命倫理研究会の研究会活動、北九州分会の分会活動、「日本の科学者」読書会などによって支えられている。これまで通り、こうした研究会活動等の継続と研究会間の連携した取り組みを行ってゆくことが必要である。

さらに、今年度は福岡で開催される原水爆禁止世界大会・科学者集会を成功させることが JSA 福岡支部に課せられた重要な責務である。

- (1) 原水爆禁止世界大会・科学者集会の福岡での開催を成功させる。
- (2) 昨年度、始まった「九大憲法カフェ」の取り組みを継続・発展させて行く。
- (3) 福岡核問題研究会、福岡環境研究会、生命倫理研究会の研究会活動、北九州分会の活動、「日本の科学者」読書会に継続して取り組む。
- (4) 脱原発社会の実現に向けたシンポジウム・学習会等の取り組みを継続する。
- (5) 会員の拡大に積極的に取り組む。
会員数が増勢となるように会員拡大を意識的に進める。引き続き、高齢化・定年などに伴う会員の減少がみられる。しかし、他支部からの転籍など新しいメンバーが加わったこと、若手の会員の支部活動への積極的参加があることなどを支部活動や支部組織の活性化につなげて行きたい。これまで通り、若手研究者や大学院生の会員の拡大・支部活動への参加への呼びかけを進めること、会員のいない大学への会員の拡大などが必要である。そのためにも、シンポジウム、例会などへの参加を会員外にも広く呼びかけ、それを足がかりに意識的に会員拡大を図る必要がある。
- (6) 支部幹事会の活動改善、支部ホームページの充実を図る。

2018 年度収支決算報告・会計監査報告：

JSA福岡支部2019年度予算

項目	予算
会費	946,200 83@11,400
院生	12,000 2@6,000
夫婦	7,200 4@1,800
購読費(読者)	14,400 3@7,200
機関誌送料	76,000 76@1,000
会費, 機関誌送料 小計	(1,055,800)
ニュース発行補助	10,000
雑収入	10,000
支部活性化補助	10,000
前期繰越	341,358
計	1,427,158
上納 一般	697,200 83@8,400
院生	8,400 2@4,200
読者	7,200 2@3,600
上納金小計	(712,800)
機関誌郵送費	76,000
会費, 機関誌送料 小計	(788,800)
旅費 シンポ等参加費	80,000
支部活動旅費	20,000
支部活動費	25,000
班・分会・個人会員活動費	20,000
幹事会交通費	20,000
事務局 人件費	120,000
交通費	0
事務用品等	10,000
通信連絡費	10,000
予備費	333,358
計	1,351,158

会計監査報告
 会計監査は適正に行われ、何ら問題がなかったことを報告いたします。
 2019年 5月 7日 磯田 宏

2019 年度予算：

JSA福岡支部2018年度収支決算報告書(2018年5月1日～2019年4月30日)

項目	予算	2019/4/30
会費	980,400	1,116,500
院生	12,000	10,500
夫婦	7,200	4,500
未収金回収	100,000	0
購読費(読者)	14,400	19,600
機関誌送料	76,000	
会費, 機関誌送料 小計	(1,190,000)	(1,151,100)
ニュース発行補助	4,000	10,000
雑収入(予稿集代等)	20,000	1,000
支部活性化補助	10,000	0
前期繰越	334,919	334,919
計	1,558,919	1,497,019
会費上納 一般	722,400	
院生	8,400	774,656
読者	7,200	
上納金小計	(738,000)	(774,656)
機関誌送料	76,000	73,308
会費, 機関誌送料 小計	(814,000)	(847,964)
旅費 シンポ等参加費	120,000	120,000
支部活動旅費	20,000	0
支部活動費(予稿集, 原水禁立替)	25,000	15,760
班・分会・個人会員活動費	20,000	14,000
幹事会交通費	20,000	20,000
事務局 人件費	120,000	120,000
交通費	0	0
事務用品等	10,000	5,717
通信連絡費	10,000	12,220
予備費	399,919	0
計	1,558,919	1,155,661
繰越金		341,358

3. 福岡支部講演会「グローバル化された国際競争下での我が国の大学の在り方」の報告

例年通り、JSA 福岡支部では、5月12日に第49回定期支部大会と毎年恒例の福岡支部講演会を実施しました。今年の講演会では、「グローバル化された国際競争下での我が国の大学の在り方」という演題で、昨年結成された大学フォーラムの呼びかけ人の一人である本庄春雄九州大学名誉教授に講演していただきました。講演の要旨は、以下の通りです。

講演要旨：

「2004年の国立大学法人化から15年が経ち、大学は予算や大学自治・運営でますます厳しい環境に置かれている。情報の最先端国家が世界の覇権国家になるという社会の急速なAI化やビッグデータ依存化が進行していく中で、国の経済力と大学の国際競争力が密接な関係で議論されている。大学の国家主義的視点である。一方で、世界中にネット公開している講義が数百にも及ぶ大学もある。ユネスコの高等教育宣言にもあるように、大学は人類全体の知の継承と発展、あるいは、人類全体の平和や福祉に貢献する人物の育成にその使命がある。大学の普遍的視点である。高等教育政策を考えるときにはその両視点が要るが、市民と共に国公立大学の在り方を考える大学フォーラムという全国的組織が有志によってこの3月に作られた。講演では、そのような国内外の状況を踏まえ、日本の高等教育の在り方を考えたい。」

20名ほどの参加でしたが、講演内容の現在の大学の危機に関してだけでなく、昨今の大学を軍事研究に取り込もうという動きとそれに対する研究者の状況など、具体的な例も上げられて活発な議論がなされました。その中で、若手の中には防衛省の安全保障技術研究推進制度に賛成するという見解を示す研究者の方が反対するものよりも多い(天文学会アンケート)といった厳しい現実も指摘されました。今後の取り組みの緊急性を感じる議論でした。

(報告者：小早川義尚)

4. 福岡核問題研究会の報告

福岡核問題研究会は、下記の4月例会を行った。

4月例会 日時：2019年4月27日(土) 10:00~12:30
話題：「原子炉級プルトニウムと核兵器」
話題提供：岡本良治氏

本例会での岡本氏の報告は、Gregory S. Jones氏の”Reactor-Grade Plutonium and Nuclear Weapons: Exploding the Myths” (Nonproliferation Policy Education Center, 2018) (*1) の内容に基づいたものであるが、同氏の1月例会での報告「『原発＝潜在的核抑止力』論の虚実」のニュアンスを一部変更せざるをえないというものであった。1月例会での論点は、原発と核兵器を同一視することは過度の単純化で、「原発＝潜在的核抑止力」論が客観的に有効であれば、原発が稼働している日本以外の国々でも核抑止力が生じるか強化されることになるが、そのような証拠または主張はないということであった。今回の論点の中心は、少なくとも技術的な点で一定の前進があれば、原子炉級プルトニウム(プルトニウム240を19%以上含む)を使って核兵器を作ることはそれほど難しいことではないということである。

プルトニウム239を使用した核分裂爆弾の代表的なものは、長崎に落とされた爆縮型核兵器である。自発核分裂を起こしやすいプルトニウム240が混じってくると意図しない事前核分裂が生

じる可能性があるため、プルトニウム 240 の割合が少ない兵器級プルトニウム（プルトニウム 240 の割合は 7%以下）が核分裂爆弾には使われることが常識化していた。しかし、Jones によれば核兵器の内部に空隙を設けることにより、爆縮型核兵器の効率が著しく改善することが 1950 年代からよく知られているという。このような改良された爆縮型では原子炉級プルトニウムを使って信頼できる核兵器の製造が可能という。

もう一つの可能性は、ブースト型核分裂兵器の使用である。この核兵器は、少量の核融合物質を使って、核分裂に寄与する中性子を大量に発生させる技術であり、意図しない事前核分裂などを防ぎ、かつ核爆発を増強することができる。この技術によっても原子炉級プルトニウムを使って信頼できる核兵器の製造が可能という。

(*1) <http://www.npolicy.org/thebook.php?bid=37>

（報告者：三好永作）

5. 例会等の案内

5-1 福岡核問題研究会

日 時：2019 年 6 月 22 日（土）10:00～12:30
場 所：九州大学筑紫キャンパス総合研究棟 C-CUBE 5 階 511 室
内 容：公開質問書に対する九州電力回答と応答の評価検討（話題提供：中西正之 氏）

5-2 北九州分会 2019 年度第 1 回例会

日 時：2019 年 6 月 28 日（金）18:00～20:00
会 場：西小倉市民センター 2 階 会議室 2
話題提供者：岡本良治 氏
題目：「人間の進化および姿勢・生活行動・運動における重力の役割
—健康問題についての物理学教育の不在—」
（概要） §1 超高齢化社会の進行と個人的体験の狭間
§2 人体の姿勢と運動—物理学、身体力学と脳神経科学で見える—
§3 人体 600 万年の歴史と現代のライフスタイルの不整合
§4 複雑系—ブラック・スワン、事故原因の階層性、健全なる妄想—
§5 腰痛，転倒を防ぐため，重力を意識した姿勢・運動を

5-3 『日本の科学者』7月号 読書会

日 時：2019 年 7 月 8 日（月）14:00～17:00
場 所：ふくふくプラザ 604 室（福岡市中央区荒戸 3-3-39）
内 容：『日本の科学者』7月号＜特集＞技能・技術教育の現状と課題

5-4 『日本の科学者』8月号 読書会

日 時：2019 年 8 月 12 日（月）14:00～17:00
場 所：ふくふくプラザ 604 室（福岡市中央区荒戸 3-3-39）
内 容：『日本の科学者』8月号＜特集＞持続可能な水インフラを作る